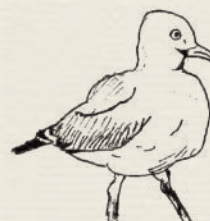




Geelong Days 2024



2024年3月24日 名古屋市の中学生18人は、
オーストラリアのジロング市に飛び立ちました。

環境保全を学ぶ旅に 出発だ!!



(((目次)))

-  2p・3p …… 事業についての説明
-  4p・5p …… 藤前干潟ってどんなところ？
-  6p・7p …… セレンディップ野生生物保護区・メルボルン動物園
-  8p・9p …… バロンヘッズ河口遺産センター・スパロベール湿地
-  10p・11p …… オーシャングローヴ・ジロング市の街並み
-  12p・13p …… ジロング市役所訪問
-  14p・15p …… ジロング市の小学生との交流
-  16p・17p …… オーストラリアの文化・歴史
-  18p・19p …… みんなの感想①
-  20p・21p …… みんなの感想②
-  22p・23p …… 旅の思い出ベスト3・伝えたいこと



はじめに

名古屋市では自ら環境保全に取り組むことができる人材を育成することを目的に、2年に1度、中学生をジロング市へ派遣しています。新型コロナウイルス感染症の影響で派遣を中止していましたが、今回、6年ぶりにジロング市を訪れることができました。

この記録誌は、私たち中学生が実際にその目で見たこと、聞いたこと、感じたことを伝えるために原稿作成や写真選定といった多くの作業を自分たちで積極的に行って完成させたものです。

記録誌を読んだ1人でも多くの方々に遠く離れたジロング市を身近に感じていただき、環境問題について考えるきっかけになれば嬉しいです。

名古屋市とジロング市の結びつき

名古屋市港区等にある藤前干潟は、長い距離を移動する渡り鳥にとって重要な中継地です。豊富な餌があるこの場所で、羽を休めた鳥たちは子育てのためにシベリアやアラスカなどに飛び立ち、冬は暖かいオーストラリアに向けて渡っていきます。

ジロング市とは、オーストラリアの南部に位置するビクトリア州に属する都市です。渡り鳥のルートで繋がる湿地があることから、両市は2007年5月22日に湿地提携を結び、協力して湿地の保全と活用に取り組んでいます。



渡り鳥の経路



What is "FUJIMAE HIGATA" like?

藤前干潟って どんなところ？

～藤前干潟とは？～



- 庄内川・新川・日光川の3つの川が合流する名古屋港にある、面積323ヘクタールの広大な干潟です。
- 潮の満ち引きにより1日2回、潮位が低くなると干潟が現れます。
- 泥の中にはカニや貝など多くの底生生物が生息し、それを餌とする多くの渡り鳥が訪れます。
- 国際的に重要な湿地を守るための条約であるラムサール条約に2002年11月18日に登録されています。

都会の名古屋市にとっても広大な自然があるなんてビックリ!! ですね。

～藤前干潟に行ってみて～

私たちはジロング市を訪れる前後に藤前干潟に行き、色々な体験をして多くのことを学びました。

● 藤前干潟の歴史

NPO法人藤前干潟を守る会の方から藤前干潟の歴史についてお話を伺いました。

1984年、名古屋市は藤前干潟をごみの埋立処分場にする計画を発表しました。名古屋市のごみが増え続けていたからです。藤前干潟で鳥を見ていた人たちがその計画を聞いて立ち上がり、藤前干潟を守る活動が始まりました。「自分たちが出すごみで干潟を埋めて欲しくない」と思い活動を始めたそうです。

「藤前干潟は生きものがたくさんいる大切な場所だ」ということをみんなに知ってもらうため、講演や生きもの観察会などをしたり、当時の名古屋市長を招いたりしました。活動をしていた方は以下の3つをモットーに活動をしていたそうです。

- ① ヒマがある人は時間を、カネがある人は資金を、チエのある人はアイデアを。
- ② 説得力あるデータにもとづいていねいでありやすいキャンペーン。
- ③ ユニークで楽しい手作りの運動をつくる。

これらの活動によって、1999年に藤前干潟の埋め立てが中止されました。

翌月にはごみの減量を目指す「ごみ非常事態宣言」が名古屋市から発表され、資源の回収やごみの分別など多くの人々の努力の末に2年間で20%、20万トンのごみの減量を達成することができました。



● 野鳥観察

名古屋市野鳥観察館の方に日本とオーストラリアの繋がりや、渡り鳥について、オーストラリアに生息する生きものについて説明していただきました。また、館内にある望遠鏡を使って野鳥を観察し、藤前干潟に生息する野鳥の多さを感じました。



● 干潟体験

NPO法人藤前干潟を守る会のガタレンジャー（干潟の案内人）のみなさんと一緒に藤前干潟に入り、生息する生きものについて学びました。ジロング市のスワンベイ干潟より、水深が深く泥の色が濃いなどの違いに気づきました。カニの巣穴の多さや、水の冷たさなど実際に入ってみて分かったことがたくさんありました。



● 藤前干潟で見つけた生きもの

アナジャコ

2m以上の巣をつくるんだよ～

ハマシギ

飛ぶ姿が「干潟の宝石」と言われているよ～

ユビナガホシヤドカリ

右のハサミが左のハサミより大きいんだよ～

ミサゴ

主に魚を食べる偏食な空飛ぶ漁師と言われているよ～

みんなで藤前干潟を守ってこう!!

● まとめ

藤前干潟は歴史的背景や生きものが豊かであることから、とても貴重な場所です。ぜひみなさんにも藤前干潟を訪れてみてください。

実際に藤前干潟に行くと様々な発見ができ、貴重な体験ができる楽しい場所です。ぜひみなさんにも藤前干潟を訪れてみてください。



●ここからはジロング市で訪れた施設などでご紹介いたします。

セレンディップ 野生生物保護区



オーストラリアの野生生物の保全を目的として作られた施設です。

施設を見学すると、柵がなく開放的で、動物たちが自然と似た形で生活できるよう多くの工夫が見られとても感動しました。



カンガルーなど、生き生きとした動物たちを近くで見ることができました。

ここでは絶滅の恐れのある野生動物の人工繁殖を行い、数を増やしています。

また、鳥や小動物の天敵であるキツネが侵入できないよう入口の柵にはかえしが付いており、野生動物の保護が行われていました。



～セレンディップ野生生物保護区で見た生きもの～



ワラビー

ビセイインコ

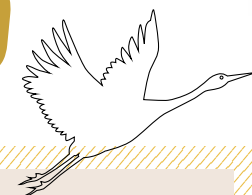
レンジャクバト

キバシヘラサギ

キバタン

ロウバシガン

メルボルン動物園



オーストラリア最古の動物園でオーストラリアの固有種だけでなく、多くの動物が世界中から集まっています。日本で見られない動物をたくさん見ることができました。



日本の動物園との違いを学びました。

●日本の動物園ではガラス張りが多いですが、メルボルン動物園では柵が多かったです。

●柵の中も、日本の動物園より広く、自然に似せた作りになっていました。



これらのことから、メルボルン動物園は動物へのストレスが小さく、人よりも動物のことを考えて作られていると感じました。

～メルボルン動物園で見た動物～



コアラ

タスマニアデビル

ディンゴ

エミュー

ウォンバット



バーロンヘッズ 河口遺産センター



オーストラリアで見ることができる鳥や動物、鳥たちの卵の剥製、浜辺で見ることができる貝がらなどが展示されており、ボランティアの方たちが運営している施設です。



羽を広げた鳥がどのくらいの大きさなのかを確かめたり、顕微鏡で動いている生物を実際に見ることができました。

オーストラリア固有の生物について知ることができたり、子どもたちが浜辺で勉強している写真を見たりすることで、自然と共生する大切さについて考える新たなきっかけとなりました。

～バーロンヘッズ河口遺産センターで見た展示物～



鳥のはく製

野鳥や小動物を食べるネコやキツネ

オットセイの子ども

スパロベール湿地

バーウオン川とコネワレ湖州立動物保護区に隣接する500ヘクタールの地域です。

雨水を管理するために2019年にジロング市がこの土地を購入しました。

ここにはたくさんの生きものたちが生息しておりジロング市はこのスパロベール湿地の希少な動植物も保護することを目指しています。

野鳥や湿地の植物についての説明を聞き、水などの管理の様子を実際に見たり、湿地を歩いたりしました。周りには高い建物が一切なくて、360度見わたすことができ感動しました。

スパロベール湿地もラムサール条約に登録されています。



～スパロベール湿地で見た生きもの～

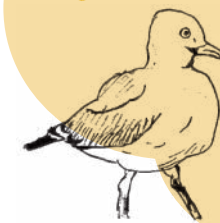


コシグロペリカン

オナガイヌワシ

オーストラリアヅル

ズクロトサカゲリ



オーシャングローヴ



ズグロチドリの保全活動について学びました。ズグロチドリは海沿いの砂浜に卵を産むので、人間に踏まれたり、犬に食べられたりし、今では絶滅危惧種になっています。この状況を少しでも改善する為、地域の人々がボランティアでビーチを訪れた人々に呼び掛けをしたり、巣の上に屋根のようなものを被せて守るなどといった取り組みがされていて、自然に対する熱意が伝わってきました。



ズグロチドリ ▶



～オーシャングローヴで見た生きもの～



ギンガモメ



オオアジサシ



カササギフエガラス



ゴシキセイガイインコ

ジロング市の街並み



ジロング市庁舎



国立羊毛博物館



ホテル

グマ・スタジアム

Geelong

ジロング・アートギャラリー (美術館)

ショッピングモール

歴史を感じました!



教会

～みんなの感想～

道に落ちているごみが非常に少なく、とてもきれいな街並みでした。
ジロング市の人々は、環境への意識がとても高いのではないかと感じました。



ジロング市役所訪問

ジロング市役所では、トレント・サリヴァン市長はじめ多くの職員の方々に温かく迎えていただきました。



トレント・サリヴァン市長のスピーチ

内容

- 日本から来てくれて、ありがとう!
- 6年ぶりで嬉しいです!
- ジロングを楽しんでね!

名古屋や藤前干潟について自分たちで作ったポスターを用いて英語でプレゼンテーションを行いました。

A班のプレゼンテーション

題名

We love Nagoya. &
History of Fujimae Tidal Flat

内容

名古屋の有名な場所や食べ物&
藤前干潟の歴史



B班のプレゼンテーション

題名

A year of Red-necked Stint

内容

トウネンの1年
春夏秋冬でのトウネンの行動
オーストラリアと日本、
シベリアを行き来している



トウネン

C班のプレゼンテーション

題名

Garbage Problem
in Fujimae Tidal Flat

内容

藤前干潟のごみ問題と
その取り組みについて



お昼ごはんはジロング市の方と一緒にいただきました。「プレゼンテーションの英語は聞き取りやすく、ポスターも時間をかけて用意してくれたことが分かる内容で、とても素晴らしかった!」と言ってもらえました。

プレゼントを
もらいました。



ズグロチドリが印刷されていました!



集合写真

ジロング市庁舎で撮影しました! プレゼンテーションはとても緊張しましたが、たくさん練習したおかげでうまく発表することができました!



ジロング市の小学生との交流



ジロング市のクイーンズクリフ小学校に通う小学5・6年生の子どもたちと交流しました。



初対面！

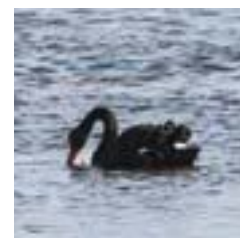
小学生と英語で
自己紹介をしました。

私たちは、藤前干潟と同じラムサール条約に登録されているスワンベイ干潟に入りました。



思っていたよりも深くて足がはまることもありました。
貝やカニ、小さい魚を見つけました！

～スワンベイ干潟で見た生きもの～



コクチョウ



コサギ



オーストラリアクロトキ



シロハラコビトウ



タッチプール



タツノオトシゴのえさやり

海洋発見センターでは、様々な海の生物を観察することができました。

私たちは英語でのプレゼンテーションをもう一度行いました。ジロング市役所でのプレゼンテーションよりも、簡単な表現にしたりクイズを出したりして、子ども向けの内容にアレンジしました。



小学生も私たちに発表してくれました。

- ・ジロング市について
- ・好きな日本のキャラクターなど



集合写真

小学生は生きものに詳しい子が多く、小さいころから自然に触れあっていることを実感しました。小さいころから自然に触れあっていることで、環境意識が高い大人が多いのではないかと考えました。



オーストラリアの文化・歴史

アボリジニ

●アボリジニとは

オーストラリアの先住民のことです。豊かな文化や伝統、言語を持っています。最近では先住民への感謝を、挨拶の冒頭に述べるが多くなっています。

●ジロング市新市庁舎

新市庁舎の前には、「Wurriki Nyal」という言葉がかかれていました。「一緒に話し合う」という意味があるそうです。中には、ワダワルン族の絵が飾られていました。



●メルボルン博物館

ビクトリア州の自然環境、文化、歴史を様々な芸術的視点で見ることができます。アボリジニに関する展示も多くみられました。



食文化

オーストラリアの食文化は、イギリスの植民地であったためイギリスの食文化が根付いています。オーストラリアの代表的な料理は、イギリス料理のフィッシュアンドチップスです。私たちが派遣中に2度食べました。タラなどの白身魚のフライにポテトフライを添えたもので、衣のサクッとした食感と魚のフワッとした食感の組み合わせが美味しかったです。その他には、お肉がジューシーなハンバーガーや、マッシュポテトと口の中で溶ける牛肉の煮込みなど、オーストラリアの食文化を味わうことができました。



国立羊毛博物館

●オーストラリアの気候と羊

オーストラリアの内陸部は乾燥帯で羊は乾燥に強いので、オーストラリアでは多くの羊が飼育されています。

●産業成長と羊

オーストラリアの羊産業は18世紀にイギリスから羊が運ばれてきたことから始まり、羊毛は海外からの強い需要に支えられて世界最高の羊毛生産国となりました。

●技術の発展と羊

昔は羊の毛を毛刈りばさみを使って刈っていましたが、今ではバリカンなどが使われていて、ロボットによる毛刈りも行われ始めています。



～みんなの感想～

Geelong Days 2024

ジロングでの6日間を振り返り、
私たちが学び、感じ取ったことを
ここにまとめました。



参加した皆が一生懸命英語に挑戦する姿、現地を全力で楽しむ姿に触れ、私自身もジロングの大自然、官民の保護活動や取り組みなど、様々な学びを得ることが出来ました。この体験を今後の自身の活動にも活かしていきます。

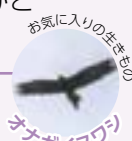
同行者 NPO 法人藤前干潟を守る会
西部 理恵



事前学習の段階から、積極的に交流しようという意思が強く感じられ、実際に英語を使っの発表など本当にみんな頑張っていました。

また、渡り鳥や干潟を通して生まれる繋がりを思う存分に感じてもらえたと思います。私自身も貴重な経験をありがとうございました。

同行者 NPO 法人藤前干潟を守る会
岸 晃大



事前学習から藤前干潟や名古屋についてジロング市の皆さんにしっかり伝えようと一生懸命に取り組む姿が印象的でした。派遣事業での貴重な体験や交流を通して、もう一段成長した皆さんの今後の活躍に期待しています。

同行者 名古屋市職員
齋藤 牧



中学生のみなさんは、学習会や現地視察で多くのことを学びたいと自主的に行動してくれていました。この派遣事業で得たことをぜひたくさんの人に伝えてほしいです。これからも様々なことに挑戦してください。

同行者 名古屋市職員
渡部 紗希



title：私の GEELONG DAYS

ジロング市に行くときの私の目標は、たくさんの人と関わり学びを得ることでした。知らないことばかりだった生き物のこと、環境のこと、ジロング市や藤前干潟のことをたくさんの人と関わり、見聞し、経験してこの目標を達成できました。ジロング市で印象に残っていることは、人々がとても温かいことです。お土産を買うとき、ドルとセントの硬貨が分からなかった私に「May I help you?」と硬貨の説明をしてくれ、交流した小学校の子達も話していてとても楽しかったです。今度は藤前干潟や名古屋のことを学んでから、またジロング市に訪れたいです。

名古屋市立有松中学校 梅田 悠那



title：「知る」で踏み出す第一歩

現地の人々は、家族を守るような温かい眼差しと命を繋ぐ場所を守ろうとする熱意を持って、鳥を守る活動に励んでいました。その姿から、見過ごしてしまいそうな小さな問題を自分たちの問題として捉えることが、一歩踏み出す原動力になるのだと感じました。

さて、今の私たちに何ができるでしょうか。まず、一度足を止め、周りを見渡してみる。そして、浮かび上がった問題を発信したり、実際に活動に参加したりすることが大切だと思います。

今回の派遣を通して得られた経験や知識をこれからの挑戦につなげていきます。

名古屋市立笠瀬中学校 大岩 凜



title：オーストラリアの人々の環境意識

今回の派遣で特に心に残っているのは、オーストラリアの環境意識の高さです。オーストラリアの子どもたちは、自然が身近にある環境で育ち、幼いころから自然に触れているので環境意識が高いと知り、驚くとともにうらやましさを感じました。小学生の生きものについての知識はとて多く驚きました。この環境意識の高さはオーストラリアの街にごみが落ちていないことなどにつながっているのだと思います。今回の派遣でたくさんの体験ができ、たくさんのことを学んだので、これからは自然や環境保全を意識していきます。

名古屋市立若水中学校 大西 来依



title：遠くてもつながっている

オーストラリアに行って強く感じたことは、「遠くてもつながっている」ということです。最初は日本とは違う伝統的な建物や自由に生活するワラビーを見て、まるで違う世界に入り込んだようでした。しかし、クイーンズクリフの小学生との交流で、簡単な英語が通じて、けん玉と一緒に遊べた時つながりを感じました。野生生物保護区で見たトウネンは日本からの渡り鳥で、自然もつながっていると実感しました。環境問題も同じです。だから、この問題を解決するには、日本だけでなく、世界的な協力が必要です。私は英語や環境問題をもっと学び、他の国の人と交流し、もっとつながりを強くしていきたいと思いました。

名古屋大学教育学部附属中学校 川口 明莉



title：自然に対する考え方の違い

ジロング市の市全体で、自然を保全する活動を行っていることが、とても印象に残りました。セレンディップ野生生物保護区の柵がなく鳥たちが近くを歩いているところ、ズブロチドリを守るために看板やパンフレットを作っているところ、小学生たちが自然と一緒に成長し干潟の大切さや自然について学んでいるところ、私は、日本とオーストラリアの自然に対する考え方、関わり方の違いをとても感じました。

私は、今回の派遣で学んだ環境保全の大切さを少しでも、色んな人に広めていきたいと思っています。

名古屋市立伊勢山中学校 栗木 美凜



title：世界の広さを実感

初めての海外、出発時は期待と不安で胸がいっぱいでしたが、今は楽しかった記憶しかありません。

私が最も印象に残っていることはクイーンズクリフの小学生との交流です。自身の「現地の方とたくさん会話する」という目標を達成できたのも、この時です。お互いの気持ちが伝わった時は大きな感動を覚え、英語をより学びたいなりました。またごみの少ないジロング市の美しい街並みも心に残り、人々の環境への意識の高さを感じることができました。この6日間は私にとってとても刺激的な充実したものになりました。

名古屋市立萩山中学校 清水 美胡





title：豊かな自然

私がジロング市に訪れて最初に思ったことは、綺麗という感情でした。なぜ沢山の生き物の種類や生態系が守られ続けているのだろう、と考えていた私は、オーシャングローヴビーチに行った際に理由が見つかりました。オーストラリアには「ズグロチドリ」という固有種であり、絶滅危惧種の鳥がいます。そんなズグロチドリが数匹いるオーシャングローヴビーチでは、ボランティアの方々がシェルターを作ったり、犬や人に卵を踏まれないようポスターを制作して発信していました。この事から生き物が住みやすい環境作りをしようという努力が、美しい自然を守り続けている秘訣だと思いました。私にとってジロング市派遣は、かけがえのない良い経験になりました！



名古屋市立天白中学校 照本 絢香

title：派遣で印象に残ったこと

僕が今回の派遣で印象に残っていることは、オーストラリアの方が日本より環境への意識が高いということです。セレンディップ野生生物保護区では、オーストラリアの固有種をキツネなどの外敵から守るために柵がつけられていました。現地の小学生の環境への興味やオーストラリアの保全活動を見て学んで、日本はまだ環境への意識が低いと感じました。環境をより良くするためにごみ拾い、分別や水・電気の節約など、些細なことでも自分にできることを探して行動に移していきます。



名古屋市立昭和橋中学校 遠山 立揮

title：オーストラリアで学んだことは…

私がこの派遣学習で一番印象的だったのはオーストラリアの人々の環境意識の高さです。オーストラリアの動物園や公園にはごみ箱がたくさん設置しており、ごみがほとんど落ちておらず、植物も多く植えてありました。さらにオーストラリアの人々からは動物と自然への被害を最小限にしようという考え方がとても強く伝わってきました。私も環境問題を少しでも減らせるように、たくさんの人に環境問題の深刻さを伝え、まずはごみの分別や資源を大切に使うなど身近にできることから始めていきます。



名古屋市立猪高中学校 土方 明

title：生物に対する意識の高さ

僕がオーストラリアに行って特に印象に残ったことは生物に対する意識の高さです。今回の派遣で訪れた各地では生物の為の様々な取り組みが行われていました。まずメルボルン動物園での自然と似た形の動物の展示方法です。日本の動物園とは違い檻は広く、中には草木や花がたくさん生えていて動物への負担を軽減する工夫が施されていました。また、海岸ではズグロチドリという鳥を守るためにビーチに来た人々に呼び掛けをしたり巣の上に屋根を被せ守るなどといった対策をしているそうです。このような保護活動を多くの人に知ってもらい、生物にやさしい住みやすい社会ができると良いと思いました。



名古屋市立長良中学校 杉本 丈海

title：世界へ

今回の派遣に参加してとても強く感じたことがあります。それは、世界は広いなということです。私は藤前干潟でガタレンジャーJr.の一員として小学生のころから藤前干潟に関わってきました。私は海洋プラスチック問題に関心がありこの派遣に参加しました。どれだけオーストラリアが街をきれいにしても日本はきれいにしないし、その逆もしかりだと感じました。問題と言われるものの原因は複数あり、自分がそれを見つめることは不可能です。しかし、藤前干潟の視点と外国の視点を聞けるような人になり世界の環境を改善する一翼になることは可能だと思っています。そのために藤前干潟に関わり続けていきます。



名古屋市立神丘中学校 中田 葉悠

title：現地で学んだこと

「現地の人とたくさん交流する」オーストラリアの環境について学び名古屋の環境問題を考えるという目的とは別に私がオーストラリアに行く前に掲げた目標です。なので、現地の小学生との交流や街での買い物などは現地のひととたくさん交流できたり、街の雰囲気などを知ることができて、本当に貴重でうれしい体験でした。今回の派遣では環境のことについても、交流することについても、いろんな面から学んだり、楽しんだりすることができてよかったと思います。多くの新しい発見があったので、それを多くの人に伝えていきたいです。



南山中学校 女子部 中野 青空

title：異国との交流から

今回の派遣は、私の初めての海外旅行でもありました。そんな派遣で、私は「積極的に人と交流する」という目標を掲げました。人と交流するのが好きな私ですが、オーストラリアは文化も言語も違います。そんな中で、共にこの派遣事業に参加した17人の仲間と協力して、現地の方々とも積極的に交流することができました。現地の小学生とは、共通の趣味について語り環境について学んだり、とても充実した時を過ごすことができました。今回の貴重な経験を自分の今後へ活かすだけでなく、多くの人に伝えていきます。



名古屋市立浄心中学校 水田 咲耶

title：オーストラリアで感じたこと

この旅で特に印象に残ったことが2つあります。1つ目は、動物が多く生息していたことです。ジロング市では、セレンディップ野生生物保護区や、街中、海辺などさまざまな場所で見ることができ、人と動物の距離が近いと感じました。2つ目は、オーストラリアの景色です。木々が多く生えており、自然がとても豊かでした。また、建物が大きくカラフルで圧倒されたのを覚えています。この事業に最高の仲間と参加ができたことは、私にとって一生の思い出です。この経験を忘れずに、これからも環境問題について学び続けていきたいです。



名古屋市立大曽根中学校 森川 エリナ

title：小学生との交流

私は旅に行く前、小学生との交流をとて楽しみにしていました。学校の英語では話すことは簡単で外国に行っても話せると思っていました。いざ交流が始まると、私の発音が悪く、まったく伝わりませんでした。なんとか伝わった文でも会話がまったく続きませんでした。でも、小学生たちは、私にわかるように生きものの説明をしてくれて、どんな魚や貝かなどを知ることができました。一生懸命私に伝えようとする工夫をしてくれて、とてもうれしかったです。正しい言葉が言えなくても、みんなで工夫をして、伝えようという気持ちがあれば、人と人は伝えあえることを知りました。



名古屋市立沢山中学校 中村 詩音

title：コミュニケーションを通して

僕が今回の派遣で特に印象に残ったことは現地のひととのコミュニケーションです。僕は英語で話すことがあまり得意ではなく、現地のひとと上手にコミュニケーションをとれるかどうかとても心配でした。ですが、現地で話をしたジロング市の職員の方や施設のガイドさんなどが、こちらの伝えたいことを理解しようとしてくれました。ガイドさんからは動物のことについて聞けたりすることができてとても楽しかったです。この経験をこれからの活動に活かしていきます。



名古屋市立一柳中学校 西岡 都和

title：想いは大切

私は今まで海外に行ったことがなく不安だらけでしたが、今回の派遣で多くのことを学ぶことができました。クイーンズクリフの小学生たちと交流した時、オーストラリアの子どもたちは各々の個性が強く、とても生き生きしていてエネルギーを感じました。互いに話す言語が異なるため思うように言葉が通じない中で、笑い合ったりプレゼンテーションを発表し合ったりして楽しむことで、完全に通じなくとも気持ちが伝わるということを実感しました。これからはもっと英語を勉強して海外の方たちとより楽しく会話をしたいです。また、今回の派遣での経験を活かして地球環境のことも考え、行動に移せるように視野を広げて物事をみていきます。



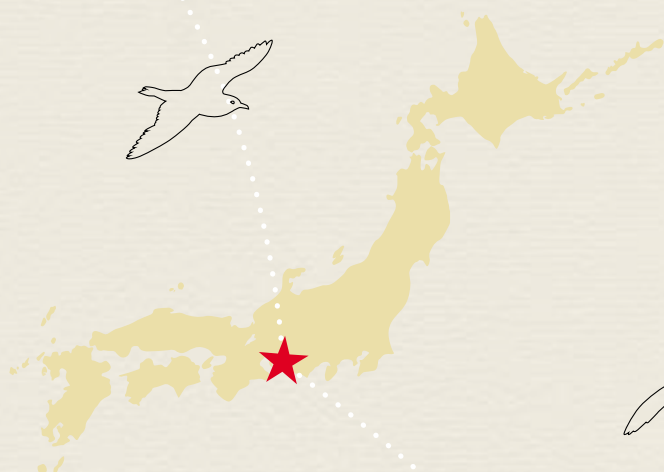
名古屋市立駒方中学校 八神 未来

title：守りたい干潟

私は今回の派遣で特に現地のクイーンズクリフ小学校の子どもたちと一緒に入ったスワンベイ干潟が印象に残っています。初めて干潟に入ったので、泥に足を取られてよく転びそうになっていたのですが、仲良くなった現地の女の子が手を引いて助けようとしてくれ、頼もしく感じました。私は実際に干潟に入ったことで、スワンベイ干潟のような生きものの住処を守っていくことがどれだけ重要かを再認識することができました。派遣に参加したことで、自然をより身近に感じられるようになりました。



愛知教育大学付属名古屋中学校 山下 真穂



GEELONG DAYS 2024 ～干潟でつながる人・自然・未来～

発行 名古屋市環境局

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目 23-13 伏見ライフプラザ 13 階

TEL : 052-223-1066 FAX : 052-223-4199

発行年月 令和 6 年 9 月